

阿蘇山

火山活動度レベル

火山活動度レベルは、2 (やや活発な火山活動) でした。

概況

中岳第一火口では、湯だまり内で高さ 5 m 程度の小規模な土砂噴出や噴湯現象が継続しています。引き続き減少傾向にある湯だまり量は、16 日の現地観測で約 3 割となっていることを確認しました。湯だまりの減少により、これまで土砂噴出が発生していた場所が噴気孔となっているものも確認しました。

17 日に火山性連続微動が発生し、その後 31 日までに計 11 回の火山性連続微動が発生しました。火山性連続微動が発生したのは、昨年 8 月 14 日以来です。

孤立型微動の発生は 2 月からやや減少傾向にありましたが、3 月はさらに減少し、1 日あたりの発生回数が 100 回を下回る日が 16 日ありました。

噴煙活動の状況

噴煙は白色・少量で、噴煙高度の最高は 600m (2 月 : 500m) で特に異常は認められませんでした(図 1、図 2)。

地震・微動活動の状況

A 型地震の月合計は 20 回(2 月 : 28 回)と少ない状態でした(図 1、図 2)。B 型地震の月合計は 36 回(2 月 : 176 回)と減少しました(図 1、図 2)。

孤立型微動の月合計は 2,983 回(2 月 : 5,526 回)と大きく減少し、13 日以降は日回数が 100 回を下回る日がほとんどでした(図 1、図 2)。また、継続時間の短い火山性微動が 4 回発生し、火山性連続微動が 11 回発生しました(図 4)。火山性連続微動が発生したのは昨年 8 月 14 日以来です。

火口や噴気地帯の状況

中岳第一火口の湯だまりの量は、1 月 4 日に約 4 割となっているのを確認して以降も減少傾向が続き、3 月 16 日には約 3 割になっているのを確認しました。湯だまりの色は灰色でした。湯だまり中央部付近では高さ 5 m 程度の土砂噴出が続いており、それ以外にも高さ 2 ~ 3 m 程度の土砂噴出が多数発生しています。また、湯だまりの減少にともない、土砂噴出の跡が噴気孔となっているものも観測しました。

湯だまりの表面温度は期間を通して 70 以上(最高 79)で、南側火口壁下の温度も最高で 393 と高い状態です(図 1)。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

地殻変動活動の状況

GPS による地殻変動観測では、草千里 - 砂千里浜、草千里 - 仙酔峡、砂千里浜 - 仙酔峡の各観測点間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした(図 5)。

機動調査観測

18～19 日にかけて中岳第一火口周辺で全磁力繰返し観測を実施しました。2 月に実施した観測結果と比較して大きな変化は認められませんでした。

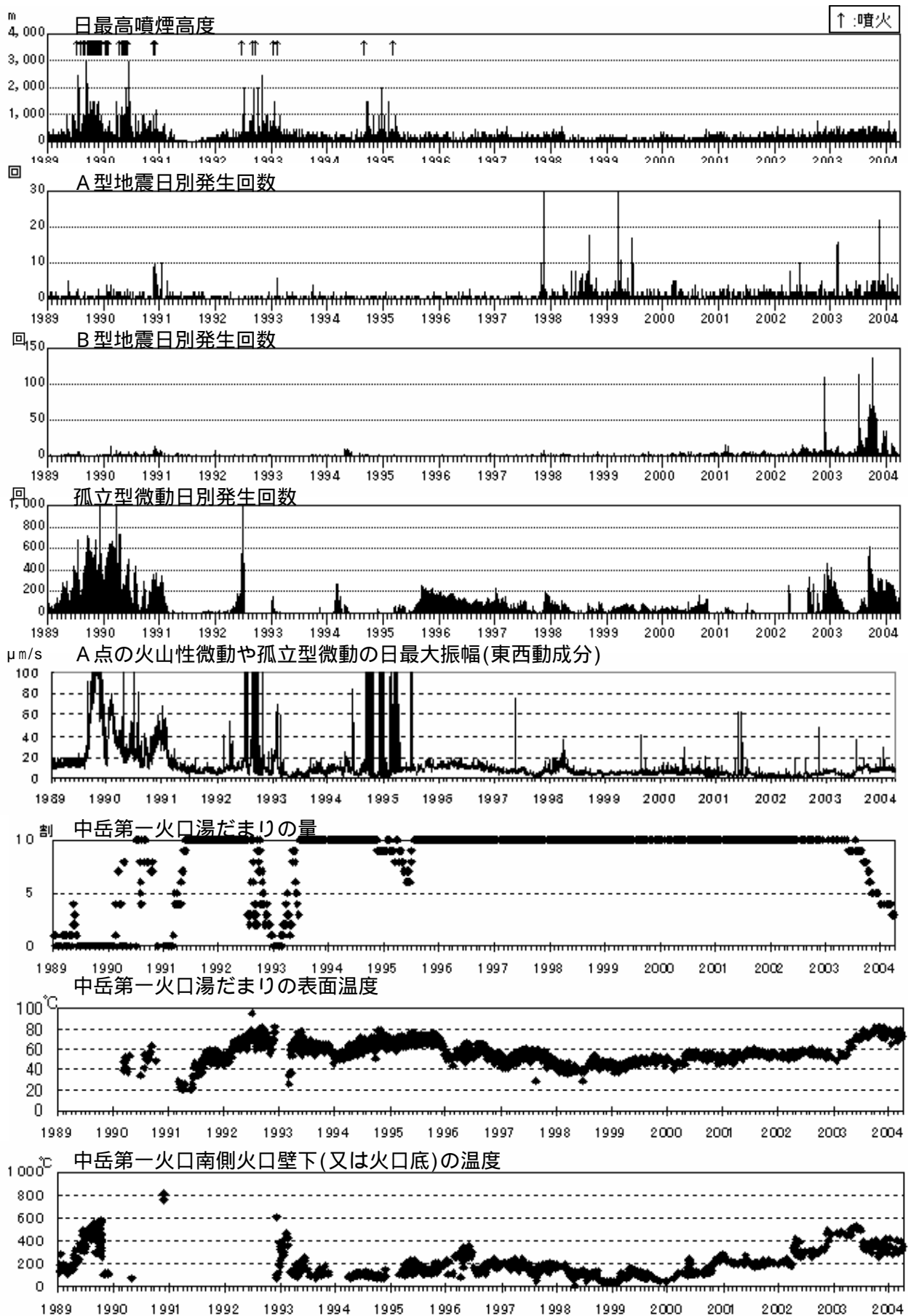


図1 火山活動経過図(1989年1月1日~2004年3月31日)

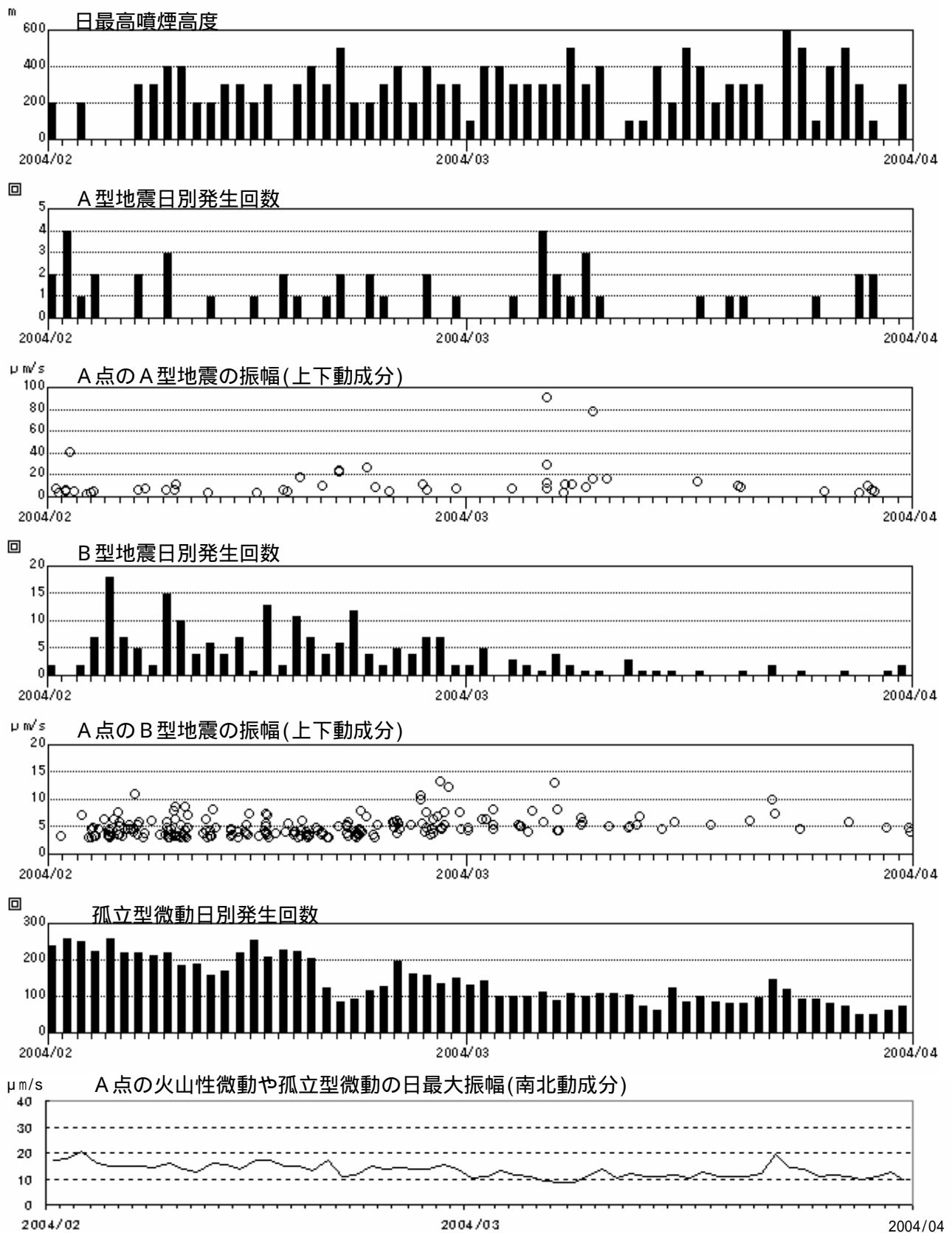


図 2 火山活動経過図(2004 年 2 月 1 日 ~ 3 月 31 日)

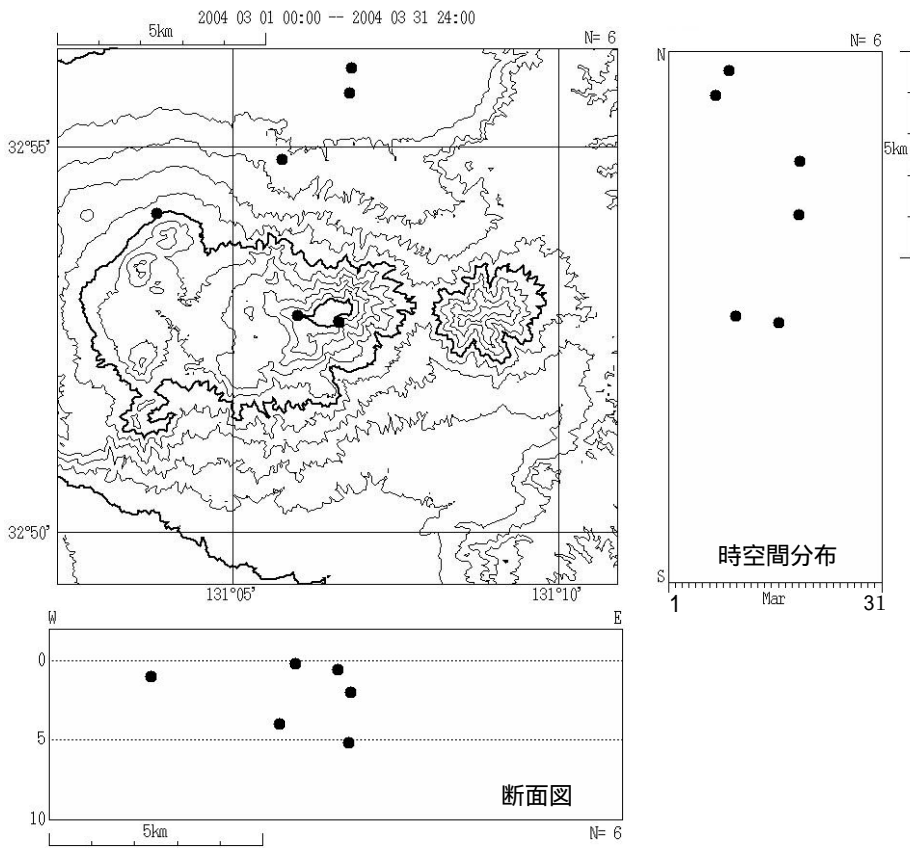


図3 火山性地震の震源分布図(2004年3月1日~31日)

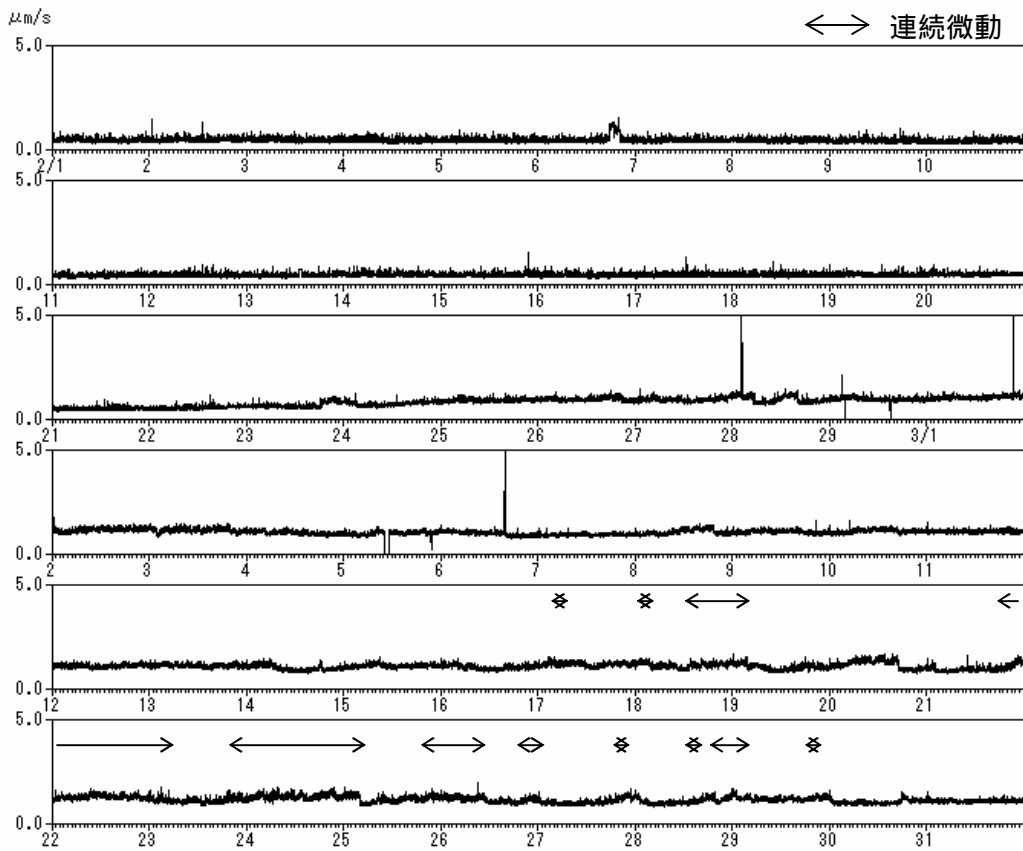


図4 1分間平均振幅の時間変化(A点南北動成分)(2004年2月1日~3月31日)

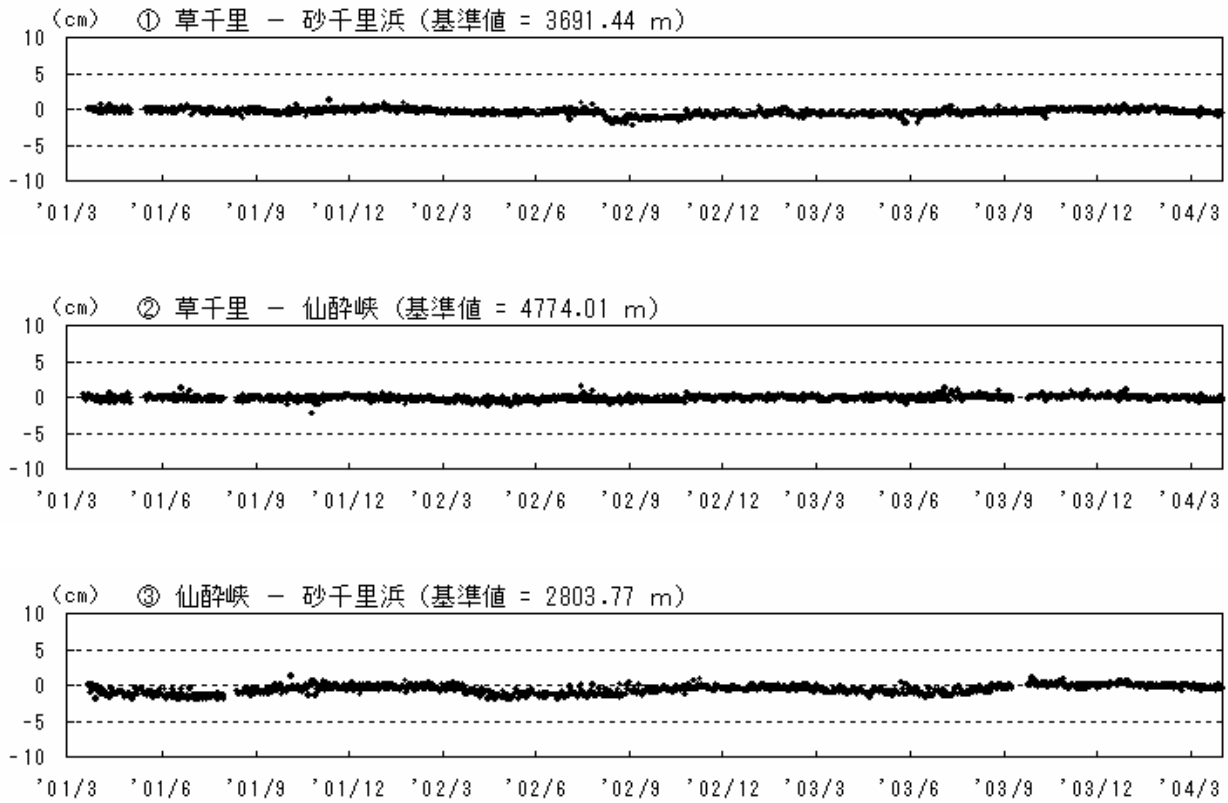


図5 GPS観測による基線長変化(2001年3月15日~2004年3月31日)

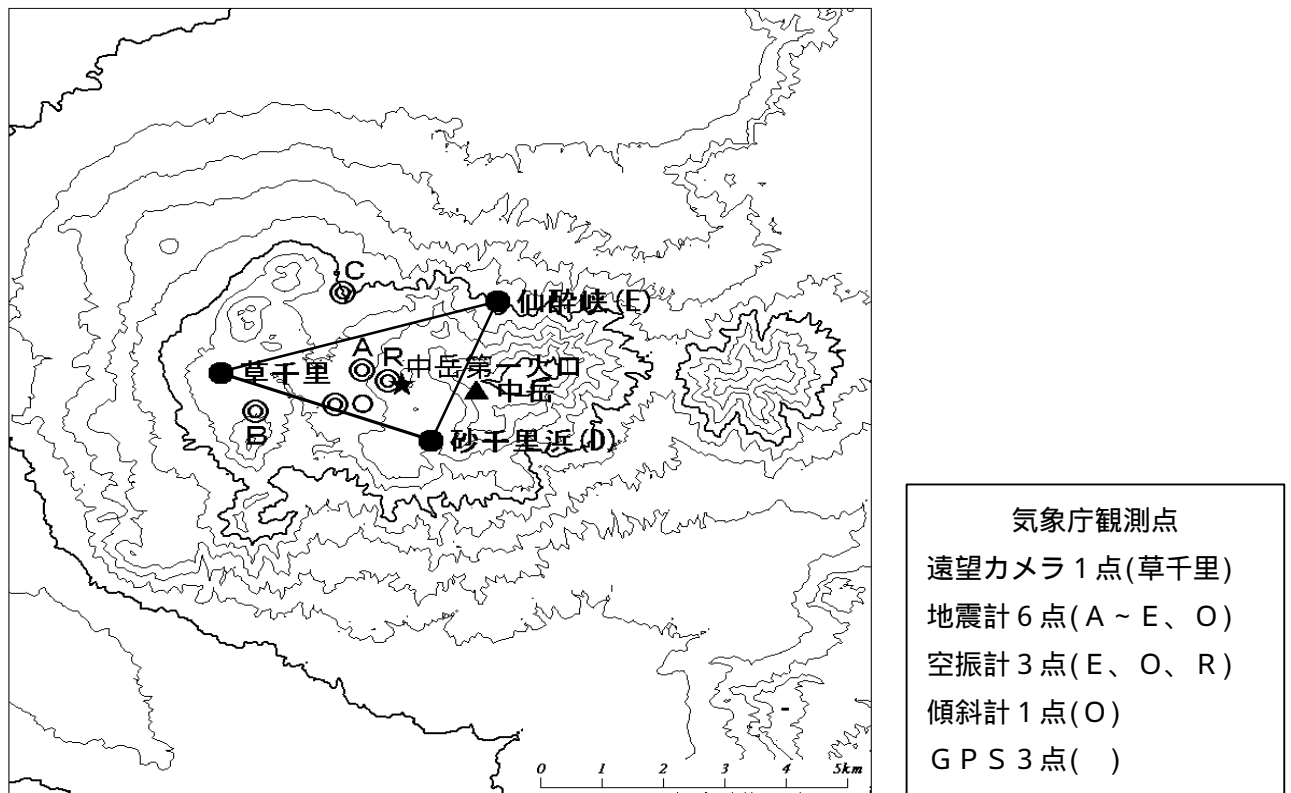


図6 観測点位置図